

シラバス詳細

タイトル「2024年度シラバス」、カテゴリ「(共通)」

科目情報

< 1 / 6件 >

科目名

日本事情 I

講義名

日本事情 I

クラス

担当教員

永島 恭子(非)

実務経験のある教員 による講義

学年

1年、2年、3年、4年

キャンパス区分

金谷川キャンパス

開講学期

前期

開講時期

(前期)

曜日・時限

木 1

講義室

講義室未設定

科目種別

通常講義(学類)

ナンバリング

g2710010

科目区分

日本事情

単位区分

選必自由

単位数

2

準備事項

備考

特修プログラム

直接参照URL

https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047340155049&formatCD=1

教育目標との関係(DPポイント配分)

基盤教育	基盤教育	最新の専門知識及び技術	5	%
		本質を見極めるための教養と学際性	5	%
		協働的な問題探究	30	%
		社会の改善につなげる創造性	30	%
		市民としての主体的態度	30	%

授業方法

講義、発表、ディスカッション、ICT機器の活用

講義情報

授業概要とねらい

[授業のねらい]

母語訳を見ただけでは、必ずしも正しい理解につながらない日本語の表現を取り上げ、それぞれの文化的背景や使われ方などの知識を深め、ひいては周囲を取り巻く日本語母語話者への理解につなげる。

[授業の概要]

「依頼」「断り」「詫び」などに用いられる日本語の表現の使われ方と文化的背景を映像教材、プリントなどを用い、クラス全体で理解を深める。さらに各表現にまつわる自身の体験などを織り交ぜながら発表し、意見交換を行う。

単位認定基準

- 授業で取り上げた表現について、理解が深まる
- 各表現の文化的背景や使われ方などについて、自身の体験を織り交ぜながら説明できる

- (c) 意見を述べる際には、適切な表現を用い、伝えたいことを正確に伝えることができる
- (d) ほかの学生の発表に対して、質問したり意見を述べるができる
- (e) 授業への出席状況、授業中の発言、宿題への取り組みから、積極的に授業に取組む姿勢がみられる。

授業計画

1. イントロダクション
2. 誤解を招きやすい表現
3. 相手への配慮をあらわす表現
4. 断りの表現①表現の導入、基本練習
5. 断りの表現②応用練習（グループワーク、発表）
6. 謝罪の表現①表現の導入、基本練習
7. 謝罪の表現②応用練習（グループワーク、発表）
8. 褒める・褒められるときの表現①表現の導入、基本練習
9. 褒める・褒められるときの表現②応用練習（グループワーク、発表）
10. 苦情・文句の表現①表現の導入、基本練習
11. 苦情・文句の表現②応用練習（グループワーク、発表）
12. 謙遜の表現①表現の導入、基本練習
13. 謙遜の表現②応用練習（グループワーク、発表）
14. そのほかの表現
15. 全体のまとめ

授業計画（週形式）

教材・教科書

授業で使用する教材・プリントは毎回配布する。

参考図書

授業中に指示する。

参考URL

授業中に指示する。

授業外の学修、及び必要な学修時間

- ・ 予習として、配布資料に関する設問に回答し、提出すること。
- ・ 発表のために、各自準備をすること。
- ・ 単位制に基づき、少なくとも60時間の授業外学修時間を必要とする。

成績評価の方法

上記の望ましい水準(a)～(e)について、出席状況・授業への参加態度（20%）、提出課題（20%）、平常のプレゼンテーション（20%）、期末試験（40%）より総合的に評価する。

成績評価の基準

- S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
- A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
- B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
- C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
- F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

木曜3限目（事前にメールで連絡すること）

授業改善・工夫

Google Classroomを用いるなどして、学生に自律学習を促すとともに、授業を効率的に進める。

留意点・注意事項

本科目は留学生対象科目である。

教員の実務経験の有無